

青年の基本的対人態度についての心理学的研究

—対人恐怖心性、自己肯定意識および親の養育態度認知との関連—

平 野 敏 恵

本研究の目的は、青年期の基本的対人態度について、対人恐怖心性、自己肯定意識、親の養育態度認知との関連から検討することであった。各態度及び意識について尺度を構成し、その尺度によってそれぞれの関連を分析し検討した。

因子分析の結果、基本的対人態度尺度は3つの下位尺度から、対人恐怖心性尺度は6つの下位尺度から、自己肯定意識尺度は3つの下位尺度から、親の養育態度認知尺度は母親、父親共に2つの下位尺度から、それぞれ構成されていることが明らかとなった。

基本的対人態度の下位尺度ごとに高群と低群に分け、男女それぞれについて他の尺度との関連を検討した。「敵対的・対立的態度」の高群は低群に比べ、概して対人恐怖心性が高い傾向にあるが、関連の仕方は男女により異なった。女子は男子より他者の評価を気にして他者との関係に悩み、自分を統制できない傾向が強くみられた。また、高群の女子は自己肯定意識が低いが、男子においては自己肯定意識との関連はみられなかった。「向他者的態度」の高群は男女ともに対人恐怖心性が低かった。女子は自己肯定意識が高いが、男子は自己充実感との関連がなく自己肯定意識との一義的關係は認められなかった。「孤立的・独立的態度」の高群男子は、対人恐怖心性尺度の「自分や他人が気になる」「自分を統制できない」が低く、一人であることを好む傾向が強いと予想される。一方、女子では、集団にとけ込めない悩みを強く持ち、他人の視線を気にしやすく、生きていくことに疲れていると感じる傾向がみられた。自己肯定意識との関連は男女ともみられなかった。これらの結果は、基本的対人態度の持つ意味が男女により異なっていることを示唆しているものと考えられる。

親の養育態度認知尺度との関連については、「敵対的・対立的態度」の高群女子では、「父親、母親との情愛的な関係認知」や、「父親の生き方、人間性の肯定的認知」尺度が低かった。「向他者的態度」の高群女子は親の養育態度を肯定的に認知していた。「孤立的・独立的態度」の高群の女子は、父親の養育態度に対する肯定的なとらえ方が低かった。男子においては、高・低群間で親の養育態度に対する認知の有意差は認められなかったが、「向他者的態度」は父親の養育態度に対する肯定的なとらえ方と正の相関を示し、「孤立的・独立的態度」は母親の情愛的関係認知と負の相関を示した。以上のことから、男女により親の養育態度に対する認知が異なることが明らかになった。総じて、女子の方に基本的対人態度と親の養育態度認知の関連が強くみられ、特に父親の影響が大きいことが示唆された。家庭での父親のサポートは青年期の対人スキルにも大きな意味を持つものと思われる。